

7.3 三重県の鋳物工業の現状と今後の方向

(調査報告書「三重県の鋳物工業」からの要約)

田上 勤 西尾憲行 河合 真 柴田周治
村川 悟 藤川貴朗 樋尾勝也 増田峰知

本県の鋳物工場は、企業数が122社、従業員数が2,532人であり、主力は鋳鉄鋳物業である。図1に昭和28年からの生産量の推移を示す。この数年は、250,000トン/年程度で推移している。材質の内訳では、ねずみ鋳鉄が約70%、球状黒鉛鋳鉄が約28%、可鍛鋳鉄が2%である。

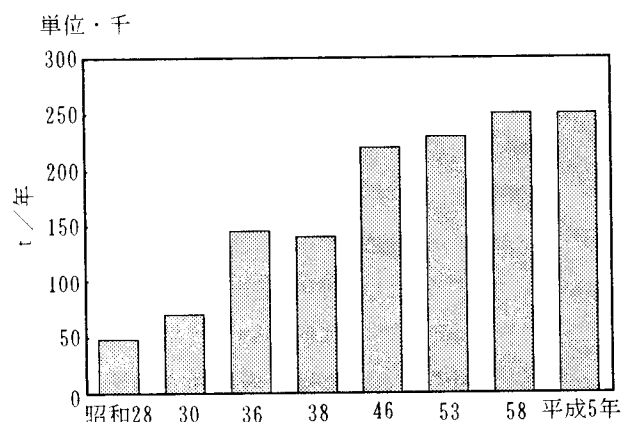


図1 本県の中小鋳鉄鋳物企業の生産量の推移

図2に鋳造部門に関わる従業員規模別企業数を示す。従業員が10~19人の企業が最も多く、19人以下の企業が全体の約80%を占めている。

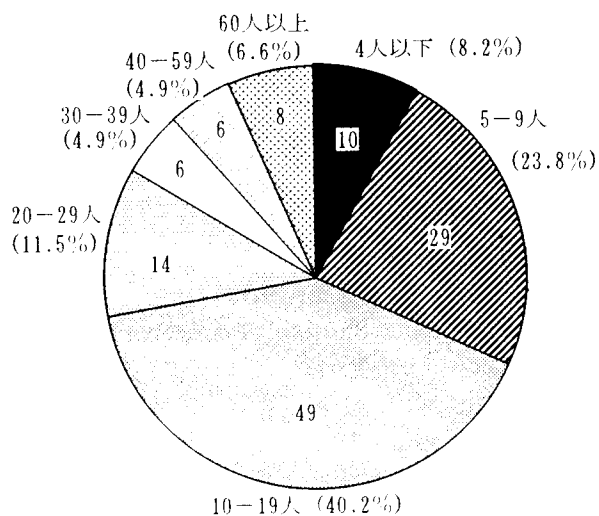


図2 鋳造部門従業員規模別企業数
(従業員合計 2,532人、円内は企業数)

生産品目別に見ると、機械、鉄蓋、輸送機器鋳物の順に多く、これを地区別に分類すると図3のようになる。鉄蓋及び下水道関係鋳物は、桑名地区、輸送機器用鋳物は、上野地区が大半を占めている。また、四日市地区では、機械部品鋳物の生産が多い。

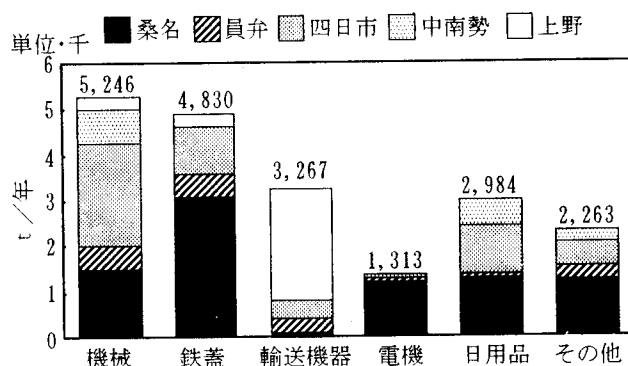


図3 品目別月間生産量(地区別)

図4に生型自動造型機の種類と保有状況を示す。圧縮空気を利用する新しい造型方法を取り入れたところがあり、今後さらに増加していくものと思われる。

また、自動化、省力化装置、管理機器の導入も意欲的に進められており、生産性向上に取り組んでいる。

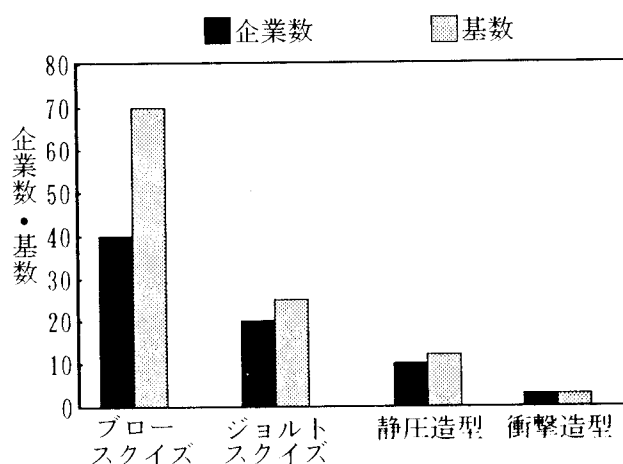


図4 生型自動造型機の種類と保有状況

鋳物を生産することで発生する廃棄物の発生量を表1に示す。鋳物1トンを生産するのに約290kgの廃棄物が発生していることになる。現在その処理は処理業者に依頼している企業が多いが、処理コストの増大、処理場の不足などの理由から、廃棄物の処理は深刻な問題となっている。

また、現在最も困っていることとして、受注の減少及び人手不足をあげている企業が多く、そのために廃業を考えている企業が約8%ある。

表1 廃棄物の発生量 (t/月)

	企業数	廃 砂	砂以外	合 計
処理業者に依頼	99	2,699	2,325	5,024
自社用地に埋立て	23	440	269	709
合 計	122	3,139	2,594	5,733

最後に、この調査にご協力をいただいた企業に謝意を表します。

なお、詳しくは、別冊「三重県の鋳物工業—中小鋳鉄鋳物工業調査報告書」を参照されたい。